

## 子馬のへその処置について

日高軽種馬農協静岡診療所 宮越 大輔

子馬が生まれた際のへその処置、皆さんどうされているのでしょうか？

娩出後の子馬のへそ（臍帯；以下“臍帯”で記載します）は細菌感染の原因になりやすく、適切な処置が必要とされています。今回は子馬のへその処置について考えてみました。

臍帯は子馬が娩出されてから6－8分後に子馬の動きによりお腹から4－7cmの部位で自然に切れることが理想とされています。

臍帯が自然に切れることには以下の利点があります。

### 1. 十分な子馬の血液量の確保

子馬が娩出された直後は臍帯内に血液が流れています。その血液が十分に子馬の体内に戻った後に臍帯が切れることが理想であり、娩出直後に臍帯が切れてしまった場合（人為的に切った場合）には、最大で25－30%の子馬の血液を損なうことになります。

### 2. 臍帯からの細菌感染が起こりにくい

理想的な切れ方をした臍帯には血液が貯留せずに感染の原因になりやすいとされています。これに対して、人為的に切られ、ひもで縛られた臍帯は血液が溜まり細菌感染が起きやすい状態となります。臍帯からの細菌感染の重篤なケースでは子馬が廃用になる場合があるので注意が必要です。臍帯を触る際は手を清潔に保つ必要があります。

臍帯の消毒はどのような方法がよいのでしょうか？

教科書によると臍帯の消毒にはクロルヘキシジン（商品名ヒビテン、マスキンなど）が理想的だとされています。

0.5%クロルヘキシジンを用いて生後1－2日間、6時間毎に消毒するのが理想的です。消毒の際にはティッピング（小さな容器に消毒液を入れ、臍帯をつける）が推奨されますが、スプレーによる消毒でも良いようです。

一般的に販売されているクロルヘキシジンは5%ですので、使用の際には10倍希釈して使いましょう。クロルヘキシジン消毒液はヒビテン液やマスキン液の商品名で販売されています。臍帯の消毒はイソジンでも良いかもしれませんが、ただし、劇ヨーチンなど刺激の強いヨード系消毒薬は組織を壊死させてしまうため推奨されないようです。

では、最後にまとめです。

1. 臍帯が自然に切れるのが理想的です。切れるまで6－8分掛かります。  
自然に切れるまで焦らずに待ってみましょう。
2. 臍帯の処置の際にはきれいな手で行いましょう。
3. ひもで縛ると感染原因になる可能性があります。
4. 臍帯の消毒は6時間毎に生後1－2日間は行いましょう。

今回は正常分娩の際の臍帯の処置について検討してみました。

臍帯は時として重篤な感染症の原因となります。そのような事態にならないためにも分娩時およびその後の処置や消毒が大切だと思います。

今回の原稿が少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。